

スケッチ

中国経済

千葉 康弘

□ □ 1

北京市のGDP(国内総生産)は千五百億元(約一兆六千八百億円、一元＝十六円)増加との推計。五輪開催七都市を中心に投下された総投資は約二千八百億元(約四兆四千八百億円)と試算(以上国家统计局)されている。さらに、経済波及効果は九千六百五十億元(約十五兆四千五百億円)と推計(野村総研)されている。しかし、東京、ソウル五輪後のように、経済発展段階では五輪の準備がスタートし



ちば・やすひろ 1941年宮城県生まれ。博士(国際関係)。元秋田経済法科大学教授。2004年から河北師範大客員教授。北東アジア学会理事、北東アジア研究交流ネットワーク幹事。秋田市在住。

中国にとって北京オリンピックは国際社会における大きな晴れ舞台といえる。改革開放初期から社会主義市場経済という移行期を経て、経済・社会開発に成功したことを内外にアピールするよい機会でもある。大会も終盤に入り、その五輪効果が気になるところだ。

河北省内の食品会社がかかわったギョーザ中毒問題によって、同省への観光客のキャンセルが相次いだ。五輪で名譽回復をと、衛生管理を徹底して指導していると聞く。銀行の両替の窓口にあるにこころ

巨大な経済効果生む

北京五輪

が切り替わるような上昇気流に乗れな上、軽減のために安定装置をどうにか、中長期(投資計画)を第十一回五輪の規模(06-10年、規模はガイドラインの意)に組み込んでいくという、計画経済の得意な用意周到さを感じ、マクロ経済面から見ても

筆者がことし三月に訪問した河北省観光局(北京から東南二百三十キロの省都・石家庄市)ではホスピタリティ(もてなし)精神の「マナーアップ運動」を軸に、国内外からオリンピックの観客を河北省内の観光地と呼び込む対策に知恵を絞っていた。特に、省内にある秦皇島(北京から東二百八十キロの渤海に面した避暑地)は北京五輪の共同開催都市の一つで、女子サッカー

りマークのついた顧客満足度測定器の設置はほほ笑ましくもあった。

◇

オリンピックの経済効果予測をみると、二〇〇四―〇八年の間に、五輪開催によって

通常の、特需はあつという間に低下する。このような投資二〇七年全国に占める北京のGDPの割合はわずか3・6%



五輪半年前の北京市。至る所で見られた建設中の高層ビル。道を挟んで左側は古い大衆食堂。3月27日、筆者撮影

であり、中国経済全体に与える影響は軽微との分析が大勢だ。

今、河北省内の地方都市でもオリンピックセールスが盛ん

環日本海、北東アジア交流に長年携わり、現在は中国

千葉康弘さんに、著しい成長を続ける中国経済の姿を紹介してもらおう。

大都市・北京、天津を省内